



今庄小学校 書き初め大会（6年生）

Contents

- ① 書き初め大会（今庄小学校）
- ② 議長 年頭のあいさつ
町議会 12月定例会報告
- ③ 決算特別委員会報告
常任委員会の行政視察報告
- ④ 一般質問
⑦ （秋田重敏、井上利治、平谷弘子、加藤伊平、
山本 優、坪川伸理、南 康夫）
- ⑧ 表紙の説明・解説
「書き初め大会」
編集後記



年頭のあいさつ



南越前町議会議長

小山 喜一

町民の皆様には希望に満ちた輝かしい新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

また、日頃より議会活動に温かいご厚情とご支援をいただき、議会を代表し、心より感謝申し上げます。

振り返ってみますと、昨年は平成の大合併により南越前町が発足し、十周年を迎え多忙な一年間でありました。

その一年の間には町内外、県、国そして世界的にもいろいろなことが、いろいろな形になって、現れた年でありましたが、「一陽来復」とともに総じて、改まったわけであります。町政では、電源交付金の縮小、地方交付税の減額など財政面で厳しい中、地方創生のため人口減少対策、産業振興など、大きな問題が山積しております。

かつて、新しいインドの建国が困難で重要問題が山積しているとき、当時のネール首相は「われわれの理想は共同の幸福のために力を合わせて働くことだ」と言っています。

自らもこの先人のことわざに倣い、議員一同力を合わせ、努力したいと思えます。

終わりに皆様のご健勝とご多幸をお祈りし新年のご挨拶いたします。

12月議会定例会報告

12月15日から4日間。補正予算、条例の制定・改正、前年度各会計決算認定など、14議案を審議、原案どおり可決された。

常任委員会報告

● 各常任委員会、決算特別委員会審議の結果は次のとおり

● 総務文教常任委員会

16日、7議案に対し次の意見を付け可決した。

意見 1 公の施設の指定管理者の指定について

今庄365スキー場一帯の施設について指定管理者に委託することとなるが、管理にあたっては、地元と関わりの深い施設であり地元関係者と、十分協議されたい。

回答 運営管理委員会（仮称）を設置して町と指定管理者が情報を共有し、雇用・物品納入等についても、地元採用を優先、地元業者との連携を密に図るよう指導する。

2 過疎地域自立促進計画について

計画の実施にあたっては、各事項の事前説明を行い、広く意見を求めて進められたい。

回答 計画の実施にあたり、事前に十分な説明を行います。

● 産建厚生常任委員会報告

17日、5議案に対し次の意見を付け可決した。

意見 1 来年4月、「南条こども園」の開園のスムーズな運行をはかられたい。

回答 26年度に設置した幼児保育検討委員会等において、議論を重ね作成したカリキュラムに基づき、適正な保育教諭を配置し、施設運営に努めます。

2 農地保全に対する国の補助制度導入の効果は理解するが、実施にあたって周辺の利用者とのトラブルが起きないよう対策されたい。

回答 冬期湛水については、環境との調和を図るための取り組みで実施にあたっては、パイプライン用水のかけ流しや、麦・そば田への水の流入を防ぐ処置を行うよう実施者に対し指導を行っていきます。

● 決算特別委員会報告

9月定例会で設置された委員会を10月19日から、11月16日までの5日間会議を開き、審査を行った。特に改善策を指摘した項目は次のとおり。

意見 1 町税等の滞納額が多額となっている。全庁体制で、徴収率の向上に努められたい。

回答 今年7月に町債権連絡会議を設置し、積極的な滞納整理事務を遂行していきます。

2 ケーブルテレビ施設の耐用年数が少なくなっており、機器の更新時に多額の経費が予想されるが、早期に計画を策定されたい。

回答 更新費用が平準化するよう計画を策定し、自己財源の積立金の有効活用と共に起債等の財源の確保に努めます。

3 地域密着型複合型施設「2つの」の入所率と地元雇用の実情、今後の推移は。

回答 入所率は約6割で今後の推移は、特養施設、グループホームとも、早期満床を目指すとのこと。また、地元雇用は、補助要件

に達成しています。

4 2つの観光協会の合併と商工観光課の新設を検討されたい。

回答 連絡協議会を設立し、協議していきます。観光事務の所管課については、課の再編に向け検討に入ります。

5 減反の廃止で環境が大きく変わる。情報を集め、優良農地確保など振興策に取り組みたい。

回答 効率的な農業経営の生産基盤整備を促進します。

6 大規模災害時での水道水確保策はあるか。

回答 新ビジョン策定時に最低限の保有機能を検討します。

7 合併10周年記念事業が行われたが、其々の事業の評価を今後の事業の参考とされたい。

回答 各担当で事業評価を行い、今後の事業の参考とします。

8 河野地区の教職員住宅・併設する社会教育センターの今後の方向性を早急に検討されたい。

回答 「公共施設等総合管理計画」の中で十分検討し今後の方向性を示していきます。

● 総務文教常任委員会視察報告

* 「500戸の町並み保存」

奈良県橿原市今井町、ここは環濠集落の様態で、江戸時代以前の建物が多数残っており、重要な伝統的建造物保存地域に選定されている。



町並みの模型

後世に伝えようとする時の面影復元と人口増加を行政が取り組み、電線地中化、空き家対策、路地が狭いため駐車場確保など多岐にわたり町並み保存整備事務所は、教育委員会の一組織として専門職を配置している。雨中の視察となったが、所長の案内に熱心かつ熱い情熱を感じ我々もかくあるべきと今さらながら勉強になった。更に感じたことは、トップの気持ちは大変重要なことで、熱意と行動力を備えた職員は貴重な存在と感じました。

● 産建厚生常任委員会報告

* 「海と川の魚を同じ水槽で飼う」

海の魚を、真水に近い水で育成するという。当町での活用を考えた視察に行った。

岡山県の「岡山理科大学」が発見したもので、今までの常識では考えられないことで話題性も高くNHKでも紹介され、多くの見学者があります。

「好適環境水」と命名され、海の魚と川の魚が一緒に泳いでいました。

実際、目の当たりにすれば信じるしかありません。詳細は省略いたしますが、基幹産業である漁業、農業の新しい道を模索する意味から水田でクルマエビの養殖、山上でマグロを養殖することにも夢ではないと考えられる有意義な視察でありました。



「好適環境水」でエビなどを養殖している

一般質問



秋田重敏

1 国道365号「栃ノ木峠」の整備促進について

問 現時点での進捗状況、施工法、工事着工はいつ頃か。

町長 県は県境の道路線形の基礎となる案を作成し滋賀県と協議を重ねているが、ここは多雪地帯であり、トンネルでの改良を基本に計画が進められておりなるべく近い将来事業化されることを期待している。

問 改良促進期成同盟会での協議内容と滋賀県及び長浜市の協力が不可欠であると思うが、現時点での協力体制はどうなっているか。

町長 今年度より二市二町の構成で改選により私が会長となり、改良整備を積極的に推進してきた。滋賀県と長浜市には、道路整備の重要性について十分な理解を得、両県一体となりの国に要望していく。

問 早期着工と完成を町民は切望しており今後の対応は、又県代行事業でなく国直轄事業で施工要望すべきと考えるが国の考えは。

2 特産「今庄つるし柿」の振興について

問 町は特産振興の面からどのように指導推進しているのか。

町長 県やJA、生産農家と連携をとり「今庄つるし柿再創委員会」を発足、特産柿振興会に対して問題点の検証等を行い出荷量の拡大を目指し協議や指導を行っている。

問 柿畑の造成、木の新植、肥培管理の指導徹底等、町のブランドとしての確立を図りたい。

町長 ブランドとして確立していく上で重要なことは、



今庄つるし柿

柿の木の管理を徹底していくことであり町は「今庄つるし柿復活プロジェクト」と称し、新植等に支援を検討している。なお、地理的表示保護制度によるブランド力を高めていく。



井上利治

1 家庭内での幼児虐待に関して

問 当町における「家庭内幼児虐待」に関する現状と対策のシステムの機能は充分なされているか。

町長 児童虐待防止法の第八条には虐待を受けたと思われる子供を発見した者は速やかに通告の義務がある。当町における虐待の実態は相談や通告はゼロではなく年々増加傾向にある。現実的には『しつけ』と『虐待』を明確にすることは大変難しい。ただ当町では大事に至るケースは現在確認されていないが児童虐待の未然防止については地域が行政と一体となって子育て家庭を支

援していく必要がある。今後、地域ぐるみでの見守り、子育てを支援していくため地域住民や民生委員児童委員、学校、保育所並びに医療機関との連携の強化と情報の共有化を図りながら対応策を講じていく。

2 町内小中学校の「いじめ」について

問 平成26年度の「いじめ」件数の再調査において全国で約18万8千件と3万件の増であったが、当町の再調査報告は。

教育長 平成27年8月20日付にて26年度の児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査の一部見直しについてとして再調査の依頼がありました。

これは『いじめ』の認知に関する考え方を明確にするもので、当町でも「からか



楽しい遠足

い、悪口」が1件、仲間外れ、集団による無視が2件、軽くぶつかられたり1件で、4件の増となった。しかし、現在は解消済みとの報告をうけている。また対策方法として学校長を先頭に教頭、教育相談員の関係職からなる『いじめ対応サポート班』を立ち上げた。内容は事実確認・関係児童への対応、関係機関との連携等具体的指導の相談で適切な対処方法の見出し、実行可能な支援で再発防止に努めている。『いじめ』の程度は種々あり、児童生徒の様々な問題行動には早期発見や早期対応を積極的に推進していく。



平谷弘子

1 商工・観光の強化に向けた行政機構改革について

問 町内周遊や滞在型も視野に入れた通年型観光へ向け、「南越前町は一つ」という合言葉とともに、

観光連盟、観光協会も一つ、それには何より行政機構の改革、すなわち本町に商工観光課、又は観光商工課を設けることが行政に課された一番の課題では。

町長 南越前町が誕生以来、町の自然を生かし、「山海里」を



南条サービスエリア（上り）

キャッチフレーズに今庄そばまつり、夏まつり、河野夏まつりなどのイベントの実施や、魅力ある観光資源の発掘、整備などの観光施策に取り組んできた。25年にホノケ山トンネルが開通し、これまでであった今庄365スキー場、花はす公園、北前船主の館、観光施設など、線が有機的に結ばれる形となった。さらに、今庄宿プロジェクトや北前船歴史空間再生プ

ロジェクトで、これを線と線で囲まれた町内全域のエリアを面として位置づける施策を打ち出したい。面の中心に南条SAを観光拠点に位置づけ、同エリアと連結した施策を進めることとする。知名度のある南越前ブランドの創出、確立を図るため、今後具体的検討に入る。

問 町全体の観光客の入込数の状況は。

産業振興課長 平成25年が65万人、26年が66万5千人で、本年の11月末で、59万6千人です。

問 観光イベントやスキー場の入込数は。

課長 そばまつりは2万2千人、はすまつりは1万9千人、河野夏まつりは、2万3千人、町産業物産フェアは1万7千人でした。また、スキー場は、雪不足の前年と比べ長期間の降雪もあり1万6千人増の6万7千人と大幅に増えた。

問 南条SAの入込数は。

課長 NEXCO中日本によると、平日1日当たり1万5千人、休日1日当たり平均で2万9千人。

意見 国も県も観光を重点的に力を入れている。町としても是非、改革を進めていただきたい。以上



加藤伊平

1 議員視察（長野県飯島町）から見た町の負担軽減について

去る10月我々議員は、長野県飯島町役場を視察した。同町は10年間で人口が10%減ったため総合計画の重点プロジェクトに「定住促進」を掲げ事業を進め、111名の移住実績がある。同町は本町が直営で運営しているケーブルテレビ、医療施設は民間が経営、スキー場、プール、温泉施設もない。本



町も民間で出来るものは民間に任せ、町の負担を軽くし、定住促進など町としての喫緊の課題に専念すべきでないか。

問 「ほのぼの苑」について

老人施設運営の社会福祉法人は町内外に多い。現在運営している社会福祉法人の理事長である町長の負担を軽減できないか。

町長 町民のニーズに応え、質の高い福祉サービスを提供できる拠点として積極的な役割を果たすため今後更に、社会福祉法人としての組織の在り方等について検証していく必要があると考へている。

問 今庄、河野診療所について

地方自治体経営である丹南病院織田病院へ委託できないか。

町長 両病院とも公益社団法人地域医療振興協会へ委託しており、収入の不足分は開設者が負担している。それぞれの地域の実情を鑑みながら、運営面財政面を考慮し、地域住民にとって最も効果的な地域医療の確立が図られるよう、類似施設も参考にし、検討していきたい。

問 ケーブルテレビについて

どこでもケーブルテレビ経営は、民間が多い。町運営の永平寺町議会では、民間委譲を、という議論があるが当町では。

町長 この分野の技術は日々進出し、専門的知識が必要で、町職員が施設の維持管理を続けることも難しくなってくるので、民間へ委託など検討する時期にきていると考へる。

問 ウォーターランドについて

同じ様なスポーツ施設は民間が経営している。委託できないか。

町長 県内類似施設の運営主体や経営状況を調査し、民間への指定管理について検討を進めたい。



山本 優

1 基幹産業の就業数と生産額は

問 農林漁業などの今後の方向は

町長 一次産業は作業がハードで一人前になるまでに時間がかかり若者が敬遠している。町は、国・県と

連携し、Uターンによる若者の受け入れ、先人たちが守ってきた地域の産業を継承してくれる若者を発掘育成していきたい。

問 一次産業の就業人員と生産額、後継者育成の方策は。

産業振興課長 平成22年の国勢調査によると全就業者5,700人中農業302人、林業46人、漁業が58人となっている。若い就業者に「水産力レッジ」の紹介など支援策を進めていく。

子供たちの意識改革のため、緑の少年団活動や、漁業、稲作体験などを行っている。



湯尾小の稲刈体験

2 教育振興基本計画について

問 生活の糧となる仕事に対する意識の向上、身を守る安全知識と知恵を年代ごとの指導計画はどのように行っているか。

教育長 学校教育の基本は、先ず「学力」をしっかりと身に付けて将来の職について生計を立てられる事、次に自分の将来に対してどう生きるか人生の指針を見つけてる事を理解させること、三つ目は社会に出てから良好な人間関係を築くことができる教育、一方、学校では避難訓練や食中毒に対する安全教育も行っている。

教育方針は年度内の教育委員会において策定する。

問 結婚の推進のため、若い男女の自然な出会いで、お互いの気持ちを確かめあって結ばれることが大切と考へるが町ではどんな対策をしているか。

教育長 青年層には現在も将来も町や地域を支えていく人材として大きな期待を持っている。町内にもいくつか活動を進めている青

年団体もあります。青年団体の育成は大切なことでその世代の役割を果たすことと、男女の出会いの場でもあるので支援する。



坪川伸理

- 1 高速大容量通信網整備に向けて進捗状況（9月定例会後）
- 2 観光・防災Wi-Fi（ワイファイ）整備について

問 1と2は関連性が深いので合わせて質問させていただく。国の補助事業として高速大容量通信網整備を行うのか？整備後に活用した住民サービスを検討されているのか？観光・防災Wi-Fi整備についても合わせて整備する考えは無いか。

町長 高速大容量通信網整備は国の補助を受けず、町が一部負担して民設民営方式を予定している。住民サービスについては他自治体の活用状況を踏まえて検討している。観光・防災Wi-Fiについては

高速大容量通信網整備後になるかと考えている。

問 国の補助を受けない理由は、**企画財政課長** 整備費のみの補助であり維持費が将来にわたり町の負担となるためです。

問 観光・防災Wi-Fiでの課題は、**産業振興課長** 観光面ではメリットは大きい。整備・維持費用運用面での課題がありクリアにしていく必要性を感じている。

総務課長 防災面では観光面同様の課題に加えて災害時のバックアップ電源の不足等があります。

問 関連して教育委員会としては高速大容量通信網整備後に教育環境整備として教育アプリやハードについて検討していますか。

教育長 高速大容量通信網は教育分野においても有用であるので費用と効果を検証しながら活用方法を検討したいと考えている。

問 高速大容量通信網整備については漸く見えてきたように思う。ネット環境整備は第一次産業はじめ医療・福祉・教育・観光・防災等切り離せない時代です。先進自

治体を目指していただきたい。

活用方法は一般公募も可と思う。またアプリ製作講座を学習講座として開く必要もある。



南 康夫

1 景観づくりと観光振興について

問 近年、価値観の多様化やライフスタイルの変化により、観光のあり方にも大きな変化が見られる。都市で暮らす人々が地方の本当の豊かさに気づき、交流人口が増える逆都市化の流れが進み、魅力ある地方は確実に残る時代を迎えるが、今後、町が本気で取り組む景観づくり、新しい観光の在り方については。

町長 今年の7月に、国の重要文化財の指定を受けた中村家の早期公開や北前船主通りの周辺を、たとえば町の美観地区に指定し、電柱の埋設など景観を重視した質の高い観光スポット創りができれば

良いと思っている。また今庄宿の町並みは「福井の伝統的民家普及促進事業を利用して、建物の外観改修工事に対し支援を行いながら景観づくりに努めたい。将来的には「重要伝統的建造物群保存地区」に選定についても、地域住民の意見を聞きながら検討していきたい。



北前船主通り

意見 景観は公共の財産であるという認識を、行政と住民がしっかりと共有し協力でき、訪れる人に発見や感動があり深い共感を呼ぶような観光の在り方を目指してほしい。観光の振興により町の魅力が高まる事で、雇用が生まれ若い子育て世代の定住促進にもつながる。新しい人と物の流れを生み出せるよう本気で取り組んでほしい。

表紙の説明・解説

新年に当たり「決意」

今庄小学校 「校内書き初め大会」

今月12日、今庄小学校では、全校一斉の「校内書き初め大会」が行われました。今回は、後しばらくで卒業の6年生を取材しました。

時代劇では、「書」と言えば毛筆で手紙を書く場面がよく出てきますが、現代は少なくなっています。それは、他の伝統文化も同じです。

そこで今庄小では日本の伝統文化の良さに触れるために百人一首大会や羽根會おどり、つるし柿づくり体験など地域の特性を活かした活動を行っています。新年恒例の全校児童一斉の「校内書き初め大会」もその一つです。新しい年に文字がきれいに書けることを願って行われています。

クラス全員が真剣に取り組んでいる姿と28名の力いっぱい作品を鑑賞して下さい。毛筆の感触に

親しみ、その仕上がりに期待をしています。

ところで、近年は、IT化が進み公式文書はもちろん、年賀状を始めラブレターなどの信書でも手書きは少なくなり多くがパソコンで作成し発送しています。

ドキドキしながら書いた恋文（今は死語かも）もパソコンでは、心が伝わらなくなっているのではないかと余計な心配をしています。こんな時こそ、手書き文字から伝わる魅力は大きいものです。

今の子どもたちが卒業して職場に入る時期には、各方面でIT化がさらに進み、筆やペンなど直接文字を書く機会は少なくなっているのではないかと心配しています。昔、カメラが発明された時「これで絵を描くことは無くなるだろう。」と言



われたそうです。

その後、写真もフィルムからデジタルになり、手元のプリンターで手軽に作れるようになりました。しかし、芸術としての「絵画」は、今も残っています。ですから手書き文字文化（書道）継承もそんなに心配いらぬのかもしれませんが、そこで、今回6年生に与えられた課題は、県内共通の「決意」です。

今年の参議院選挙から18才での選挙権が附与されることで大人が近づいて来たことであり課題の様に何を決意したのか、大人の準備段階の6年生の「決意」についてそれぞれのご家庭でもお子さんとの話合いの場を持つのもいいのではないかと感じました。

今回の取材の中心は6年生でしたが、他の学年の教室ものぞいてみました。各学年それぞれ熱心に課題に挑戦していました。これらの作品は、町内の4校で持ち寄り、審査・表彰が行われます。これからも伝統文化を受け継ぎ、丁寧に文字を書ける子供たちに成長して欲しいと願っています。

編集後記

▼ 今年は暖冬で雪がほとんど降らない日が続いていましたが、やっと1月半ばで降りました。雪も観光資源として活用してきた町としては今後どう対処するか十分検討する必要があります。

これらの議論はCATVやこの「議会だより」で出来るだけお知らせ致します。

▼ このたよりも、今の形となつて今回で3回目、皆さまのご意見をいただき限られたページですが議会活動を理解いただけるよう毎回工夫してきましたが、今回は、7名の一般質問があり、その報告が中心となり、日常の活動や寄稿などはありませんが「了解をお願いします。」

▼ 好評の表紙「学びの場」は、四校目で、南条小を予定しています。次年度からのテーマも親しみやすいものをと現在検討中です。

▼ 次回の定例会は3月4日開会の予定です。本会議傍聴と議会に対する意見・要望など有りましたら事務局までお寄せ下さい。

議会広報特別委員会